

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200642		
法人名	医療法人社団崇仁会		
事業所名	洞戸グループホーム天津風		
所在地	岐阜県関市洞戸大野852-1		
自己評価作成日	令和4年12月1日	評価結果市町村受理日	令和5年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&ki_gyosyoCd=2170200642-00&SerViceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和5年1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在はコロナ禍であるため感染予防に力を入れている。毎日の消毒、職員と入居者、訪問者のバイタル測定、自治体の要請を受けて週に2回程度の抗原検査やPCR検査を実施している。感染予防の為、面会は制限しているがLINEなどを使用してオンライン面会に力を入れている。面会や外出が制限されている分、レクなど手作りで道具を作ったり、おやつ等も手作りして楽しみが継続できるように力を入れて行っている。施設の特徴としては、入浴を水曜と日曜以外行っている。他には環境に配慮しており、洗剤など環境にやさしいものを使用している。医療面では常に看護師が配置できるように配慮しており、母体の船戸クリニックと連携をして看取りまで行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者に無理強いすることなく、その人のペースに合わせて自由に自然なまま暮らし続けられる介護を提供している。外部との交流が難しく毎月の行事やレクリエーションを工夫し、楽しみと笑顔が増える支援をしている。家族とはラインで写真の送信、ズーム面会等でコミュニケーションを図り、関係性の維持にも努めている。室内犬を飼い、抱く、撫でる、話す、触れ合う等で癒しの効果も得ている。日々の暮らしの中で洗濯物干しや畳み、餌やり、炊事手伝いや裁縫等で利用者の身体機能の維持や生きがいにもつなげている。入居者の超高齢化と重度者も多く、医療処置が必要となっても最期まで支援できるよう母体の医療機関とも連携し手厚い体制にしている。職員は情報共有アプリを使用し、全職員で情報交換しながら統一したケアに努めている。環境への配慮から無添加の調味料や自然由来の洗剤等を使用し、穏やかに優しい気持ちを育てている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については毎朝申し送り時に出勤者全員で唱和している。理念にあるように、自然を大切にして環境にやさしい洗剤などを使用している。	理念に基づいた年間のスローガンを、職員で話し合い漢字一文字で表し玄関に掲示している。職員は個人目標を立て、管理者と年2回面談し達成状況を確認している。全職員の目標を一覧にして、振り返られるようにトイレに掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人々が職員として働いている。庭の草刈りや花の水やりなど手伝ってくださる地域住民もみえる。現在はコロナの影響で書面開催だが、運営推進会議では自治会長に報告したり交流を継続している。	地域の会議に出席し情報を得て、地元の花火を見に行く、お祭りにお供えを納める、保育園児から作品をもらう等で関わっている。住民から野菜や果物の差し入れや草刈りの協力を得ているが、地域とのつながりが少ない。	便りを回覧板で回してもらい事業所の状況を知らせているが、コロナ禍終息時に向けて、より地域とのつながりが深まるよう積極的な働きかけに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	天津風や認知症の人の理解を深めてもらうために天津風便りを地域の回覧板にのせている。コロナが落ち着いたら避難訓練を地域住民と行い災害時の協力体制を築いていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を書面開催して2か月に1度行い、地域入居家族役所等の意見、要望などをサービスの向上に活かしている。	書面会議として事前に事業所の入居状況、行事、事故、職員異動、活動予定等を知らせ、メンバーから意見をもらい、助言や意見をまとめて返送している。コロナ禍での対応への助言にアクリル板の設置や職員が名札をつける取り組みをした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市とは、電話やメールでやり取りして協力関係を築くように努めている。	電話やメールで情報交換や連絡を取り合う事は多いが、書類提出時は市の担当者に実情を伝えている。市主催の会議や研修への参加や感染症予防物品等の支給を受けている。介護相談員を受け入れ玄関先で面談してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会で職員に対する研修会を行い意識してケアにあたっている。	身体拘束廃止に関する指針を定め、委員会を年4回開催している。カンファレンスで委員会の報告をし、欠席者には情報共有アプリで周知している。研修も年4回実施し、意見の記載とチェック欄で周知の確認をしている。身体拘束廃止を徹底できるようフロアに啓発スローガンを掲示している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	クリニックの各部署のトップの会議で虐待などの勉強会を行い、それを各施設へおろしてカンファレンスで勉強している。施設内に防止の張り紙をしている。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は対象者がいない為勉強不足となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、施設長が時間をかけて十分な説明をして理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者ご家族の意見は、ケアプランの説明の時やLINEにて要望をいただいている。それをMCSにて情報共有している。コロナの為面会ができない時はZoom面会や電話で状況を伝えたり、介護プランに意見を書きいただき職員間でシェアしている。	玄関先での面会、ズーム面会、電話やライン等で意見や要望を聞いている。便りと共に日頃の様子や行事風景での写真を送付し、体調変化時はその都度報告している。手紙が良い家族には手紙を送り、意見が言いやすくしている。介護相談員に聞いてもらう場合もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスで意見を話し合い、解決に取り組んだり、職員面談をして意見や提案を聞いている。	各委員会やカンファレンスで意見を出し検討したり、情報共有アプリで意見交換している。家庭事情や体調に合わせ希望の勤務体制にしている。職員意見から介護記録の電子化、機械浴の購入、洗濯機や炊飯器の買い換え等をした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護のトップが適宜施設を訪問して、職員の状況を把握している。何かあればすぐにLINEや電話にて報告、相談している。職員が持っている能力を協議して解決に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	吸引、スキルアップのための研修をできるだけ受けられるようにシフト調整している。本人が希望する研修も行っている。新しい職員にOJTを行っており、確実にできるまで先輩スタッフがつく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度、Zoomで勉強会を行い、年に一度法人で講師を招いて勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査時に入居者や家族から話をきき、その情報をスタッフ間で共有している。その後実際の状況を見ながら再度本人の困っていることを聞き安心した生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査により、情報を収集しているので電話やLINEなどで今の状態や要望などを聞きコミュニケーションを取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査により情報を収集し、帰宅願望が強い入居者様には声掛けや傾聴をして本人を傷つけないよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日中は洗濯たたみ、一緒に調理など、できることはやっていただき、本人が楽しんで仕事ができるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者本人の希望を家族へ伝えたりして本人と家族の絆を大切にしている。コロナで面会を制限しているが、LINEやテレビ電話を使用している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人に会いたいという昔の知人の面会を行ったりして本人に喜んでもらえるように関係が途切れないように支援している。	家族等と話したい人には電話の取り次ぎの支援をしている。携帯電話での通話は自由にしてもらっている。手紙、絵手紙や年賀状の住所と宛名を書く支援をしている。知人や親族の面会に対応し、馴染みの関係が維持できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者本人の思いを大切にしながら入居者同士のトラブルが無い様に職員が配慮して声掛けしながら関わり合いを支えている。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなった方に四十九日と一周忌の法要で、お花をお供えとして送らせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりに個別ケア担当者を設け、コミュニケーションを取っている。本人と家族の希望を聞き、連携を保つよう努めている。	日頃の会話に寄り添い聞いたり、夜間や入浴時の1対1となる時に思いや希望を聞いている。日中時間の過ごし方や起床・就寝時間も強制せず、本人の意向に合わせている。飲み物やおやつは選択しやすくして聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問にて家族に生活歴を聞き、介護計画を作成している。3ヶ月ごとのモニタリング、アセスメントの見直し、カンファレンスにてより良いサービスを目指している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定、排泄チェック、入浴時に全身チェック、食事摂取状態のチェック等を把握し、情報を共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者様に個別ケア担当があり、本人や家族からの要望などがかなえられる様にし、MCS等にて情報を共有している。ケアマネ、看護師、医師等の意見を参考に介護計画を作成している。	担当者が本人や家族に希望を聞き、医師や看護師の意見も参考にケアマネジャーと協働し介護計画を作成している。カンファレンスでモニタリングし、介護記録や情報共有アプリでの意見も参考に必要時は見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア担当者が中心となり職員間で情報を共有できるようにカンファレンス、MCS等を活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受け持ち担当者や、その時々で他職員もLINEや電話を利用し、ご家族との連絡を実施している。2ヵ月に一度天津風便りを家族に送っている。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの為、家族や地域の方と協力はできていない。消防署と関わりを持ちながら避難訓練等を行い安全な生活ができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を聞いて本人及び家族の意向に合わせて対応している。月に2回往診日を設けており適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時に家族の希望で協力医に変更する人が多い。専門医受診時は、家族とは受診先で合流し、看護師が付き添い受診経緯や日頃の状況等を医師に説明し、今後の指示をもらっている。歯科の訪問診療や訪問看護は希望で受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携を図り、入居者様の気付いたところはすぐに伝え、適切な看護を受けていただけるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換を行い、早期に退院できるよう情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、ナース、家族と話し合いを行い、方針を決めている。終末期では、コロナ禍でも面会及び宿泊できるようにしている。	入居時に事業所の方針を説明し、食事が低下してくる等の状態に合わせて看護師が家族に説明している。医師も交えて話し合い方針を確認し、看取り指針、看取りプランにて職員とは情報共有アプリで確認しつつ支援している。家族と一緒に看取れるよう毎日の面会も可としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生時は看護師に報告はできているが、訓練は行っていない。AEDの講習会は行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を作成し、職員に避難する場所も把握し役割分担を決め誰もが対応できるようにしている。	ほぼ毎月、火災や土砂災害等の夜間想定で避難訓練を実施している。一時避難所までの危険を回避する為に、老人福祉施設の協力を得て避難先を確保している。BCPを作成し、米、水、乾パンやオムツ等を備蓄しているが、訓練時に住民の協力が得られていない。	コロナ禍が終息時には、長年培った地域との関係性から迅速な対応が得られやすい近隣住民に、協力への働きかけが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや居室での対応は、ドアを閉めて対応し、丁寧な言葉や笑顔で対応できる様心掛けている。	利用者を尊重した態度で接し、言葉遣いや声の大きさ等に配慮し、気になる場合は、その都度職員で注意し合っている。居間の静養室にパーテーションを設置し、入浴時は同性介助にしている。プライバシー研修、接遇研修を年1回実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取って要望を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の得意なことを把握し、塗り絵、計算問題、裁縫など一人ひとりの好きなことが行えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を聞いたらその服を入浴時に用意したりしている。化粧水やヘアピン等を希望の方には付けてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のあるメニューを入居者様に合うように工夫し、提供している。調理の時も手伝いや片付けをしていただいている。	季節の食材や頂いた野菜を使用し、行事食や希望のメニューを取り入れている。たこ焼き、鯛焼きや芋きんとん等の手作りおやつを出し、目前で調理してきたの楽しみにしている。下拵え、盛り付け、食卓や食器拭き等のできることをしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ナースと相談し、エンシュアやプロテインなど個人に合わせて提供し、必要な栄養摂取ができるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後30分経過後に口腔ケアを行っている。本人の能力に応じて見守り、介入し、口腔内の清潔保持に努めている。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を見て、時間の間隔を把握し、個々に合わせてトイレ誘導している。	排泄パターンに合わせて声かけや誘導し、二人介助でもトイレでの排泄に努めている。パッドの種類、紙パンツやリハビリパンツを昼夜使い分けて自立に向けた支援をしている。大きな文字と絵柄でトイレの場所を分かりやすく表示している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を積極的にする。便秘の際はナースと相談し、その人に合った対策を考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの状態やADLに合わせて、家庭浴、リフト浴と入浴方法を変えて支援している。	利用者のペースに合わせた入浴時間を確保し、週3回の入浴にしている。希望の順番、湯温、シャンプーやボディソープに応じている。浴室から見える外の風景や庭の花木を眺め、会話したり歌を歌ったりして楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はその方の状態や本人の要望で休息していただいている。夜間は、入居者様の就寝時間を配慮し、その方に合わせた就寝介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があればMCSを使用して全員に伝えている。その時、目的、副作用、用法用量を伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事等を毎月行い楽しめるように支援している。コロナにより外出が制限されているので室内での楽しみを増やしていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴は気候の良い時はできているが、外出はコロナ禍である為出来ない。	人との接触を避けるよう時間帯や場所を考慮して、あじさい見学と花火大会に外出できた。敷地内の桜の木の下にベンチを置き、天気の良い日は体操する、お茶を飲む、日向ぼっこをする、洗濯物干しや取り込み、花の水やり等で外気に触れる機会を作っている。	

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の取り扱いはしていない。必要であれば代理購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身の携帯やLINEなどでやり取りしている。手紙は時々書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しがまぶしい時はカーテンを閉めたり、テレビもできる限り多くの入居者様が楽しめるものを選択するようにしている。現在は床暖房が故障しているが常に温度管理に気を使って快適に過ごせるように配慮している。庭には色々な花があり季節感が分かるように工夫している。	玄関に季節の花を植えたプランターを置き、居間に利用者の作品を飾っている。雑誌や新聞を読み自由に過ごせるようにしている。空気清浄機、イオン発生器、二酸化炭素測定器、テーブルにアクリル板を設置し、日に4回の消毒と換気、職員は週2回の抗原検査を実施し感染症予防にも注意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的にはテレビのある東フロアに皆さん集まってみえるため、独りになりたい入居者様は西フロアで過ごすことができる。席なども基本的には固定しておらず入居者様が好きな場所で過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時家族に家具などをもってきていただき、過ごしやすい様に配置していただいている。その後本人が部屋を確認して微調整をし、居心地よく過ごせるようにしている。	自宅で使い慣れたTV、タンス、ラジオ、寝具類等を持ち込み、自分の作品、家族写真、表彰状、縫いぐるみ等を飾っている。花に水をやる、本を読む、アルバムを見る、仏壇に水を供え参る等で自由に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにはトイレと分かるように張り紙をしたり、居室にも特注の表札をつくってもらい自分の居室が分かるようにしている。危険を避けるため、動線に障害物が無い様に配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200642		
法人名	医療法人社団崇仁会		
事業所名	洞戸グループホーム天津風		
所在地	岐阜県関市洞戸大野852-1		
自己評価作成日	令和4年12月1日	評価結果市町村受理日	令和5年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosvoQd=2170200642-00&SerViceQd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和5年1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については毎朝申し送り時に出勤者全員で唱和している。理念にあるように、自然を大切にして環境にやさしい洗剤などを使用している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人が職員として働いている。庭の草刈りや花の水やりなど手伝ってくださる地域住民もみえる。現在はコロナの影響で書面開催だが、運営推進会議では自治会長に報告したり交流を継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	天津風や認知症の人の理解を深めてもらうために天津風便りを地域の回覧板にのせている。コロナが落ち着いたら避難訓練を地域住民と行い災害時の協力体制を築いていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を書面開催して2か月に1度行い、地域入居家族役所等の意見、要望などをサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市とは、電話やメールでやり取りして協力関係を築くよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会で職員に対する研修会を行い意識してケアにあたっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	クリニックの各部署のトップの会議で虐待などの勉強会を行い、それを各施設へおろしてカンファレンスで勉強している。施設内に防止の張り紙をしている。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は対象者がいない為勉強不足となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、施設長が時間をかけて十分な説明をして理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者ご家族の意見は、ケアプランの説明の時やLINEにて要望をいただいている。それをMCSにて情報共有している。コロナの為面会ができない時はZoom面会や電話で状況を伝えたり、介護プランに意見を書きいただき職員間でシェアしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスで意見を話し合い、解決に取り組んだり、職員面談をして意見や提案を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護のトップが適宜施設を訪問して、職員の状況を把握している。何かあればすぐにLINEや電話にて報告、相談している。職員が持っている能力を協議して解決に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	吸引、スキルアップのための研修をできるだけ受けられるようにシフト調整している。本人が希望する研修も行っている。新しい職員にOJTを行っており、確実にできるまで先輩スタッフがつく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度、Zoomで勉強会を行い、年に一度法人で講師を招いて勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査時に入居者や家族から話をきき、その情報をスタッフ間で共有している。その後実際の状況を見ながら再度本人の困っていることを聞き安心した生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査により、情報を収集しているので電話やLINEなどで今の状態や要望などを聞きコミュニケーションを取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査により情報を収集し、帰宅願望が強い入居者様には声掛けや傾聴をして本人を傷つけないよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日中は洗濯たたみ、一緒に調理など、できることはやっていただき、本人が楽しんで仕事ができるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者本人の希望を家族へ伝えたりして本人と家族の絆を大切にしている。コロナで面会を制限しているが、LINEやテレビ電話を使用している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人に会いたいという昔の知人の面会を行ったりして本人に喜んでもらえるように関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者本人の思いを大切にしながら入居者同士のトラブルが無い様に職員が配慮して声掛けしながら関わり合いを支えている。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなった方に四十九日と一周忌の法要で、お花をお供えとして送らせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりに個別ケア担当者を受け、コミュニケーションを取っている。本人と家族の希望を聞き、連携を保つよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問にて家族に生活歴を聞き、介護計画を作成している。3ヶ月ごとのモニタリング、アセスメントの見直し、カンファレンスにてより良いサービスを目指している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定、排泄チェック、入浴時に全身チェック、食事摂取状態のチェック等を把握し、情報を共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者様に個別ケア担当があり、本人や家族からの要望などがかなえられる様にしMCS等にて情報を共有している。ケアマネ、看護師、医師等の意見を参考に介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア担当者が中心となり職員間で情報を共有できるようにカンファレンス、MCS等を活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々で生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受け持ち担当者や、その時々で他職員もLINEや電話を利用し、ご家族との連絡を実施している。2ヵ月に一度天津風便りを家族に送っている。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの為、家族や地域の方と協力はできていない。消防署と関わりを持ちながら避難訓練等を行い安全な生活ができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を聞いて本人及び家族の意向に合わせて対応している。月に2回往診日を設けており適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携を図り、入居者様の気付いたところはすぐに伝え、適切な看護を受けていただけるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換を行い、早期に退院できるよう情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、ナース、家族と話し合いを行い、方針を決めている。終末期では、コロナ禍でも面会及び宿泊できるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生時は看護師に報告はできているが、訓練は行っていない。AEDの講習会は行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を作成し、職員に避難する場所も把握し役割分担を決め誰もが対応できるようにしている。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや居室での対応は、ドアを閉めて対応し、丁寧な言葉や笑顔で対応できる様心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取って要望を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の得意なことを把握し、塗り絵、計算問題、裁縫など一人ひとりの好きなことが行えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を聞いたならその服を入浴時に用意したりしている。化粧水やヘアピン等を希望の方には付けてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のあるメニューを入居者様に合うように工夫し、提供している。調理の時も手伝いや片付けをしていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ナースと相談し、エンシュアやプロテインなど個人に合わせて提供し、必要な栄養摂取ができるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後30分経過後に口腔ケアを行っている。本人の能力に応じて見守り、介入し、口腔内の清潔保持に努めている。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を見て、時間の間隔を把握し、個々に合わせてトイレ誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を積極的にする。便秘の際はナースと相談し、その人に合った対策を考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの状態やADLに合わせて、家庭浴、リフト浴と入浴方法を変えて支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はその方の状態や本人の要望で休息していただいている。夜間は、入居者様の就寝時間を配慮し、その方に合わせた就寝介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があればMCSを使用して全員に伝えている。その時、目的、副作用、用法用量を伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事等を毎月行い楽しめるように支援している。コロナにより外出が制限されているので室内での楽しみを増やしていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴は気候の良い時はできているが、外出はコロナ禍である為出来ていない。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の取り扱いはしていない。必要であれば代理購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身の携帯やLINEなどでやり取りしている。手紙は時々書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しがまぶしい時はカーテンを閉めたり、テレビもできる限り多くの入居者様が楽しめるものを選択するようにしている。現在は床暖房が故障しているが常に温度管理に気を使って快適に過ごせるように配慮している。庭には色々な花があり季節感が分かるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的にはテレビのある東フロアに皆さん集まってみえるため、独りになりたい入居者様は西フロアで過ごすことができる。席なども基本的には固定しておらず入居者様が好きな場所で過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時家族に家具などをもってきていただき、過ごしやすい様に配置していただいている。その後本人が部屋を確認して微調整をし、居心地よく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにはトイレと分かるように張り紙をしたり、居室にも特注の表札をつくってもらい自分の居室が分かるようにしている。危険を避けるため、動線に障害物が無い様に配慮している。		